

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年 目標年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							工事費	進捗率							
				用地費	進捗率										
かんがい排水事業	1	宮川4工区	伊勢市	②	【全体事業概要】 農業用用水路工 管水路 L=11,275m	H18	5,339	52.6%	【整備済み内容】 農業用用水路工 管水路 L=5,796m	【社会経済情勢の変化】 高齢化や人口減少の進行、TPPなどの世界の食料需給をめぐる環境変化や消費者ニーズの変化などに対応するため、国は平成27年3月に新たな「食料・農業・農村基本計画」を策定するとともに、平成28年8月には新たな「土地改良長期計画」を策定しました。その中で「豊かで競争力ある農業」を政策課題の1つとし、「高収益作物への転換による所得の増加」、「担い手の米の生産コストの大幅削減」を達成すべき重点目標としています。 三重県では、平成28年度から4年間を目標とする「みえ県民カビジョン第二次行動計画」を策定し、持続性の高い「もうかる農業」を実現するため、「三重県農業農村整備計画」に基づき、農業者が農業を継続できる生産基盤の整備を計画的に進めることとしています。	【費用対効果分析】 B / C = 1.02 【営農事業効果を取りまく情勢の変化】 三重県において、農業就業人口は平成17年から10年で約40%と急激に減少しており、また農業就業人口の年齢別構成割合は、60歳以上の農業就業人口が86.5%を占め、農業に携わる方々の高齢化が進んでいます。また一方で、5ha以上の耕作を行う農業経営体数は増加しており、特に10ha以上の農業経営体数は平成17年から10年で約2倍と農地の集約化が進んでいます。これらを受けて、農業就業人口の減少や高齢化、農地の集約化に対応するため、維持管理や水管理の省力化がますます必要となっています。	引き続き事業の進捗を図り平成32年度の完成を目指します。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を承認する。	継続	【課題】 水路の老朽化により、現在、水路の維持管理補修や水管理に農家は苦慮しており、早期の事業完成を行う必要があります。 【解決方針】 当該事業は国庫補助事業で実施しており、十分な予算措置がなされるよう国に要望しながら必要な予算の確保に努め、計画的かつ効率的に事業を実施し早期完成に努めます。
					【事業目的】 本地区の施設は、昭和32年度に着工された国営宮川用水土地改良事業の下流幹線水路として、伊勢市の農地611.4haを灌漑する県営事業により整備された総延長約15.7kmの農業用水路です。建設から約40年近くがたち、施設の老朽化により、漏水などが発生し、維持管理に多大な時間と費用を要していました。このため、国営造成施設(国営宮川用水第二期事業)と一体的に改修することとし、パイプライン化による国営施設と連動した水管理システムを採用し、安定した農業用水供給と維持管理の省力化を図るため、平成18年度に事業に着手しました。	S	5,069	50.7%							

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年 目標年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							工事費	進捗率							
							用地費	進捗率							
道路事業	2	一般国道477号菰野バイパス	菰野町	④	【全体事業概要】 延長 L=2.0km 幅員 W=11.25m 主要構造物 橋梁 1橋	H20	3,800	1%	【実施済事業内容】 未整備 【残事業内容】 延長 L=2.0km 主要構造物 橋梁 1橋	菰野町内における国道477号の平成27年度の交通量は平成22年度から約15%増加。 また、平成33年には「三重とこわか国体」の開催が予定され、菰野町や四日市市内では複数の会場が予定地に選定されており、菰野バイパスや四日市インターアクセス道路を利用することで関係者の円滑な移動が可能となります。このように菰野バイパスを取り巻く社会情勢は変化しており、その必要性はさらに高まっています。	【費用対分析効果】 B/C=2.6 【コスト削減】 耐候性鋼材の使用や防草対策により、維持管理費抑制に努めるとともに、他工事で発生する建設発生土の使用を検討し、コストの削減を図ります。 【代替案】 現計画ルートは、最も経済的な最適ルートです。	平成33年度の全線開通に向け事業を推進します。	事業継続の妥当性が十分に認められることから事業継続を了承する。	・現道交通の分散化を図り、円滑な交通を確保するとともに、緊急輸送道路としての機能強化や高規格幹線道路へのアクセス強化を図るものであることから、確実な整備の推進が必要で す。 ・地域の課題や道路整備のストック効果を国への確に伝え、計画的な事業執行が図れるよう努めていきます。 ・市町や関係機関との連携を図り、円滑な事業執行による事業期間の短縮や、コスト削減を図ることにより、事業の早期完成に努めます。	
					5	3,140	1%								
					H33	660	0%								
					【事業目的】 現道交通の分散化を図り円滑な交通を確保するとともに、観光地及び物流拠点へのアクセス強化を図ります。										

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年 目標年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							工事費	進捗率							
							用地費	進捗率							
道路事業	3	一般国道167号磯部バイパス	志摩市	④	<p>【全体事業概要】 延長 L=2,500m 幅員 W=6.5(8.0)m</p> <p>主要構造物 トンネル 1本 橋梁 1橋</p>	H24	8,500	6%	<p>【実施済事業内容】 未整備 用地買収実施中</p> <p>【残事業内容】 延長 L=2,500m</p> <p>主要構造物 トンネル 1本 橋梁 1橋</p>	<p>国道167号の津波浸水想定や線形不良、伊勢磯部線の事故多発、雨量規制区間などの問題解決のため、当事業の必要性に変化はありません。平成25年9月に伊勢志摩連絡道路の一部として「第二伊勢道路」が開通しました。このことにより国道167号を介し伊勢二見鳥羽ラインを経由して伊勢自動車道と繋がる広域的な道路ネットワークが拡大され、残る区間にあたる磯部バイパスの重要度は高まっています。</p>	<p>【費用対分析効果】 B/C=1.3</p> <p>【コスト削減】 トンネルLED照明や防草対策工などにより、維持管理費抑制に努めるとともに、別の道路で余剰となった道路設備の流用を検討するなど、コスト削減に努めていきます。</p> <p>【代替案】 現道拡幅は多くの家屋が支障となることから、バイパス案が最適と考えており、また、平成29年度に用地買収が完了する予定であることから、代替案はありません。</p>	<p>平成33年度の供用にに向けて事業を推進します。</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。</p>	<p>・幅員狭小や線形不良の区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、緊急輸送道路としての機能強化を図るものであることから、確実な整備の推進が必要です。</p> <p>・地域の課題や道路整備のストック効果を国への確に伝え、計画的な事業執行が図れるよう努めていきます。</p> <p>・市町や関係機関との連携を図り、円滑な事業執行による事業期間の短縮や、コスト削減を図ることにより、事業の早期完成に努めます。</p>	
						5	8,180	4%							
						H33	320	48%							
					<p>【事業目的】 現道部に想定される津波浸水区域の回避により緊急輸送道路機能を確保し、狭隘区間の回避により幹線道路機能の強化及び交通安全性の向上を図ります。また伊勢志摩地域の連絡強化により救急救援活動の円滑な実施に寄与するとともに、ポストサミット効果を生かす地域観光産業を支援します。</p>										

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年 目標年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							工事費	進捗率							
							用地費	進捗率							
道路事業	4	一般国道260号南島バイパス	南伊勢町	③	【全体事業概要】 延長 L=3,470m 幅員 W=6.0(11.0)m 主要構造物 トンネル 2本 【事業目的】 幅員狭小や線形不良の区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、緊急輸送道路としての機能強化を図ります。	H4	6,500	92%	【実施済事業内容】 供用済延長 L=1,100m 主要構造物 トンネル 1本 【残事業内容】 延長 L=2,370m 主要構造物 トンネル 1本	当該路線は、南伊勢町の行政機能を分担する南勢庁舎と南島庁舎を結ぶ唯一の幹線道路であり、緊急輸送道路の指定を受けています。このことから、当該事業の必要性に変化はありません。	【費用対分析効果】 B/C=1.2 【コスト削減】 トンネル照明は、最新の照明器具を導入し、維持コストの削減を図ります。 【代替案】 事業の進捗状況や周辺の地形・土地利用状況から、代替案はありません。	平成33年度の全線供用に向けて事業を推進します。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。	・幅員狭小や線形不良の区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、緊急輸送道路としての機能強化を図るものであることから、確実な整備の推進が必要です。 ・地域の課題や道路整備のストック効果を国への確に伝え、計画的な事業執行が図れるよう努めていきます。 ・市町や関係機関との連携を図り、円滑な事業執行による事業期間の短縮や、コスト削減を図ることにより、事業の早期完成に努めます。	
						S	5,610	91%							
						H33	890	96%							

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年 S 目標年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							工事費	進捗率							
				用地費	進捗率										
道路事業	5	一般国道368号上長瀬	名張市	②	<p>【全体事業概要】 延長 L=2,000m 幅員 W=6.0(9.75)m</p> <p>主要構造物 橋梁 3橋</p>	H19	1,934	50%	<p>【実施済事業内容】 供用済延長 L=760m</p> <p>【残事業内容】 延長 L=1,240m</p> <p>主要構造物 橋梁 3橋</p>	<p>【費用対分析効果】 B/C=1.4</p> <p>【コスト削減】 2号橋から3号橋の区間で、盛土材として他工事で発生した土を使用することで、工事費用として855万円のコスト削減を図っています。</p> <p>【代替案】 全事業区間において用地はおおよそ確保済みとなっており、現在までの用地取得の状況と工事進捗状況から代替ルートはないと考えており、代替案はありません。</p>	<p>平成34年度の全線供用に向けて事業を推進します。</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。</p>	<p>継続</p>	<p>・幅員狭小や線形不良の区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、緊急輸送道路としての機能強化を図るものであることから、確実な整備の推進が必要です。</p> <p>・地域の課題や道路整備のストック効果を国への確に伝え、計画的な事業執行が図れるよう努めていきます。</p> <p>・市町や関係機関との連携を図り、円滑な事業執行による事業期間の短縮や、コスト削減を図ることにより、事業の早期完成に努めます。</p>	
						S	1,714	45%							
						H33	220	88%							
					<p>【事業目的】 当事業区間のすれ違い困難箇所を解消するとともに道路の視距を改善することで、安全で円滑な交通を確保し、幹線道路としての機能向上を図るとともに、緊急輸送道路ネットワークを強化します。</p>										

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年 目標年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							工事費	進捗率							
海岸高潮対策事業	6	長島地区海岸	桑名市	②	【全体事業概要】 堤防工 耐震補強(堤内)L=1,164m 耐震補強(堤外)L=1,398m 波返工 L=1,398m	H19	4,319	84.3%	【整備済み内容】 堤防工 耐震補強(堤内) L=684m 耐震補強(堤外) L=1,398m 波返工 L=938m	堤防背後の商業施設の入込客数は近年増加傾向で、長島地区の世帯数及び事業所数も増加傾向です。 また、平成26年度は、桑名市全域で大規模な避難訓練が実施されるなど、地域住民の防災意識は向上しています。 背後地の地域開発の状況は1964年にナガシマリゾート、1976年に長島スポーツランド、1998年に「なばなの里」の営業が開始され、2002年には伊勢湾岸自動車道の長島ICが供用開始、ジャズドリーム長島も開業するなど沿岸部の地域開発が進みました。また、1962年以降、宅地開発も進んでいます。	【費用対効果分析】 B/C = 9.6 【コスト削減】 当該事業は、基本的には鋼材の矢板を機械で打ち込む工事であるためコスト削減の余地はあまりありませんが、少しでもコスト削減を図るために地盤の状況に応じて工区分けを行い、適切な矢板形式及び矢板長を選定し、不要な鋼材を減らすことができ、コスト削減を図りました。 【代替案】 地震による液状化に対応できる工法が必要であり、他の工法として考えられる深層混合処理工法を比較しましたが、施工性や経済性だけでなく、周辺土壌や河川、地下水への影響を考えると、現在の工法である鋼材工法が優位と考えられますので、残事業についても鋼材工法を実施することを考えております。	引き続き事業の進捗を図り平成29年度の完成を目指します。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。なお、7番については、事業期間が長期にわたることから事業期間の短縮を図り事業の早期完了に努められたい。	継続	【課題】 平成29年度の完成目標を少しでも早くできるような事業を推進する必要があります。 【解決方針】 今後、この事業量に見合う予算確保に努め、早期完成を目指し、事業進捗を図っていきます。
					【事業目的】 当地区は、伊勢湾に面し、木曾川・揖斐川に挟まれた海抜ゼロメートル地帯で内閣府が指定した、南海トラフ地震防災対策推進地域です。 また、地質調査の結果、地震により液状化の危険性が高い地盤であることがわかりました。 このことから地震で堤防が崩壊・沈下した場合、その後の津波・高波浪・高潮により背後のナガシマリゾートや住宅等に甚大な浸水被害が想定されるため、本事業は「地震による堤防の崩壊・沈下を防ぎ、その後の津波・高波浪・高潮から背後の生命・財産を守る。」ことを目的としています。	H29	-	-							

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を進める社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年 目標年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							工事費	進捗率							
海岸高潮対策事業	7	長島港海岸	紀北町	③	【全体事業概要】 中ノ島地区 護岸補強 L=1,180m 呼崎名倉地区 堤防補強・改良 L=1,030m 離岸堤 L=300m(3基) 西長島地区 堤防補強 L=743m 陸閘改良 N=2基	H2	3,990	79.5%	【整備済み内容】 中ノ島地区 護岸補強 L=693m 呼崎名倉地区 堤防補強・改良 L=1,030m 離岸堤 L=300m(3基) 西長島地区 堤防補強 L=743m 陸閘改良 N=2基	防護区域は、依然として人家が密集しており、防護の必要性に変化はありません。 また、南海トラフ巨大地震の発生が危惧され、津波による甚大な被害が想定されるなか、平成27年8月には、紀北町全域で津波から避難する防災訓練が実施されるなど、防災意識は高まっております。	【費用対効果分析】 中ノ島地区 B/C=21.0 呼崎名倉地区 B/C=18.8 西長島地区 B/C=24.3 全体 B/C=20.1 【コスト削減】 中ノ島地区において、一部の工事を海上工事から陸上工事に変更することで約2千5百万円のコスト削減が図られました。 【代替案】 中ノ島地区においては、地形条件、背後地条件等から、前出し護岸案が、もともと経済的な工法であることから、代替案は考えられず、複数の前出し工法から選定された現計画を進めることが妥当であると判断しています。	引き続き事業の進捗を図り平成36年度の完成を目指します。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。なお、7番については、事業期間が長期にわたることから事業期間の短縮を図り事業の早期完了に努められたい。	継続	【課題】 7番の長島港海岸高潮対策事業については、平成2年度から着手し、すでに26年経過し、長期の事業となっています。平成36年度の完成目標を少しでも早くできるよう事業を推進する必要があります。 【解決方針】 当事業はこれまでイセエビ漁への影響が少ない5月から10月に工事期間が限られていたましたが、地元からの強い要望もあり、漁業関係者と調整を図ってきた結果、通年でのご理解をいただきました。これにより年間の工事可能延長を約1.5倍に伸ばすことができますので、今後、この事業量に見合う予算確保に努め、早期完成を目指し、事業進捗を図っていきます。
					5	3,990	79.5%								
					H36	-	-								

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年 目標年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							工事費	進捗率							
				用地費	進捗率										
下水道事業	8	北勢沿岸流域下水道(南部処理区)	四日市市、鈴鹿市、亀山市	③	<p>【全体事業概要】 計画区域面積:6,854.0 ha (四日市市749.0ha、鈴鹿市4,429.0ha、亀山市1,676.0ha) 計画処理人口:228,621人 (四日市市20,107人、鈴鹿市168,000人、亀山市40,514人) 流域幹線延長:39.4km 計画汚水量:135,997m³/日最大 終末処理場:1箇所</p> <p>【事業目的】 伊勢湾をはじめとする公共用水域の水質保全と汚水排除による生活環境の改善に資するものである。</p>	S62	299,012 (流域下水道:114,011) (流域関連公共下水道:185,000)	62% (流域:59%) (流関:63%)	<p>【整備済み】 (流域下水道) 処理能力:64,600m³/日 幹線管渠延長:39.4km (流域関連公共下水道) 計画区域:3,186ha</p> <p>【残計画】 (流域下水道) 処理能力:71,400m³/日 幹線管渠延長:0km (流域関連公共下水道) 計画区域:3,668ha</p>	<p>【全体計画】 近年の社会経済情勢や周辺環境の変化等にあわせ、平成28年度に全体計画の見直しを行っている。</p>	<p>【費用対効果分析】 B/C=1.8</p> <p>【コスト削減】 計画の策定及び工事の実施にあたっては以下のようなコスト削減の取り組みを行ってきた。今後も「三重県公共事業コスト構造改善に関する第4次行動計画」に基づき、更なるコスト削減に努めたい。</p> <p>I 工事コストの改善 II 時間的コストの改善 III ライフサイクルコストの改善 iv 社会的コストの改善 V 長期的コストの改善</p> <p>【代替案の検討】 下水道に代わる汚水処理の整備手法には、農業集落排水施設、漁業集落排水施設、コミュニティ・プラント、浄化槽がある。 経済比較を行った上で、地域の地形条件、市街地の形成状況、社会情勢等を考慮した結果、下水道による整備が最適である。</p>	<p>関連市の下水道整備による処理場への流入水量の増加にあわせて段階的に処理施設の増設を行う。</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。</p>	継続	<p>【課題】 三重県の下水道の整備状況は、全国と比べて低い水準であるため、様々な社会情勢の変化に対応しながら、より一層整備を進める必要があります。</p> <p>【解決方針】 関連公共下水道の進捗に合わせ処理場の増設工事を推進します。</p>
						H65	21,812 (流域下水道:8,487) (流域関連公共下水道:13,324)	71% (流域:76%) (流関:68%)							

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							工事費	進捗率							
目標年	用地費	進捗率													
下水道事業	9	中勢沿岸流域下水道(志登茂川処理区)	津市	③	<p>【全体事業概要】 計画区域面積:2,570.0ha (津市2570.0ha) 計画処理人口:82,810人 (津市82,810人) 流域幹線延長:27.8km 計画汚水量:49,883m³/日最大 終末処理場:1箇所</p>	H9	144,850 (流域下水道: 62,690) (流域関連公共下水道: 82,160)	32% (流域:53%) (流関:16%)	<p>【整備済み】 (流域下水道) 処理能力:0m³/日 幹線管渠延長:25.1km (流域関連公共下水道) 計画区域:392ha</p> <p>【残計画】 (流域下水道) 処理能力:49,900m³/日 幹線管渠延長:2.7km (流域関連公共下水道) 計画区域:2178ha</p>	<p>【全体計画】 近年の社会経済情勢や周辺環境の変化等にあわせ、平成27年度に全体計画の見直しを行っている。</p>	<p>【費用対効果分析】 B/C=1.5</p> <p>【コスト削減】 計画の策定及び工事の実施にあたっては以下のようなコスト削減の取り組みを行ってきた。今後も「三重県公共事業コスト構造改善に関する第4次行動計画」に基づき、更なるコスト削減に努めたい。</p>	<p>関連市の下水道整備の進捗にあわせて幹線管渠の整備を行うとともに、処理場への流入水量の増加にあわせて段階的に処理施設の増設を行う。</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。</p>	<p>【課題】 三重県の下水道の整備状況は、全国と比べて低い水準であるため、様々な社会情勢の変化に対応しながら、より一層整備を進める必要があります。</p> <p>【解決方針】 早期供用に向けて、志登茂川浄化センター建設工事を推進します。</p>	
						S	131,996 (流域下水道: 61,158) (流域関連公共下水道: 70,838)	33% (流域:52%) (流関:17%)		<p>I 工事コストの改善 II 時間的コストの改善 III ライフサイクルコストの改善 iv 社会的コストの改善 V 長期的コストの改善</p>	<p>【代替案の検討】 下水道に代わる汚水処理の整備手法には、農業集落排水施設、漁業集落排水施設、コミュニティ・プラント、浄化槽がある。経済比較を行った上で、地域の地形条件、市街地の形成状況、社会情勢等を考慮した結果、下水道による整備が最適である。</p>				
						H59	12,854 (流域下水道1,532) (流域関連公共下水道11,322)	26% (流域:99%) (流関:16%)							

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年 S 目標年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							工事費	進捗率							
							用地費	進捗率							
街路事業	10	松阪公園大口線外1線	松阪市	③	<p>【全体事業概要】 延長 L=820m 幅員 W=16.0m(一般部) 主要構造物 踏切アンダーパス1基</p> <p>【事業目的】 当該事業は、鉄道交差の立体化により踏切を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、歩行空間の整備を行い、歩行者自転車の安全の確保を図ります。 また、災害時の緊急輸送に重要な役割を果たす緊急輸送道路としての機能強化を図ります。</p>	H14	10,100	96.0%	<p>① 平成27年度末の事業進捗率は、事業費ベースで96%(工事94%、用地99%)となっています。</p> <p>② 平成28年3月に鉄道立体交差化(アンダーパス)工事が終了し、全体延長820mのうち約290mが完成供用しています。</p> <p>・「松阪市都市計画マスタープラン(H20.3)」において、市内の交通流動の円滑化を担う幹線道路として位置づけられています。</p> <p>・「松阪市交通バリアフリー基本構想」において、重点整備地区の特定経路に設定されており、安全な通行環境の確保及び中心市街地の活性化の観点から、当該事業の必要性は高い状況にあります。</p> <p>・東日本大震災や熊本地震の発生により、緊急輸送道路の役割が再認識されています。</p>	<p>【費用対便益分析】 B/C=1.1</p> <p>【コスト削減】 ・LED道路照明の導入について検討を行った結果、従来の水銀灯やナトリウム灯よりライフサイクルコストに優れたLED道路照明を施工しました。 ・現場から発生する残土について、他工事へ流用を行いました。</p> <p>【代替案】 現在の事業進捗状況から代替案はありません。</p>	平成31年度の全線完成に向け事業を推進します。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。	継続	<p>鉄道と道路が立体交差する本線アンダーパス部約290mについては、平成28年3月に供用を開始し、踏切遮断による慢性的な交通渋滞が解消されましたが、引き続き仮設道路の撤去及び副道の整備を進め、沿道からの進入を含めた周辺交通の円滑化等を図る必要があります。</p> <p>残る区間については、歩行者の安全確保のため、未整備となっている歩道の整備を進めるとともに、当該歩道に電線共同溝を整備して電線を地中化し、無電柱化を図り、大規模地震発生時における電柱倒壊による通行遮断等のリスクを解消することにより、緊急輸送道路としての機能強化を図る必要があります。</p> <p>仮設道路の撤去及び副道の整備については、平成28年度末に完了する予定です。</p> <p>また、残る歩道及び電線共同溝については、電気事業者や地下埋設物の道路占有者と調整を行い、平成31年度の完成に向け整備を進めていきます。</p>	
						S	5,910	94.0%							
						H31	4,190	99%							

注:再評価理由

- ① 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ② 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③ 再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④ 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要がある事業